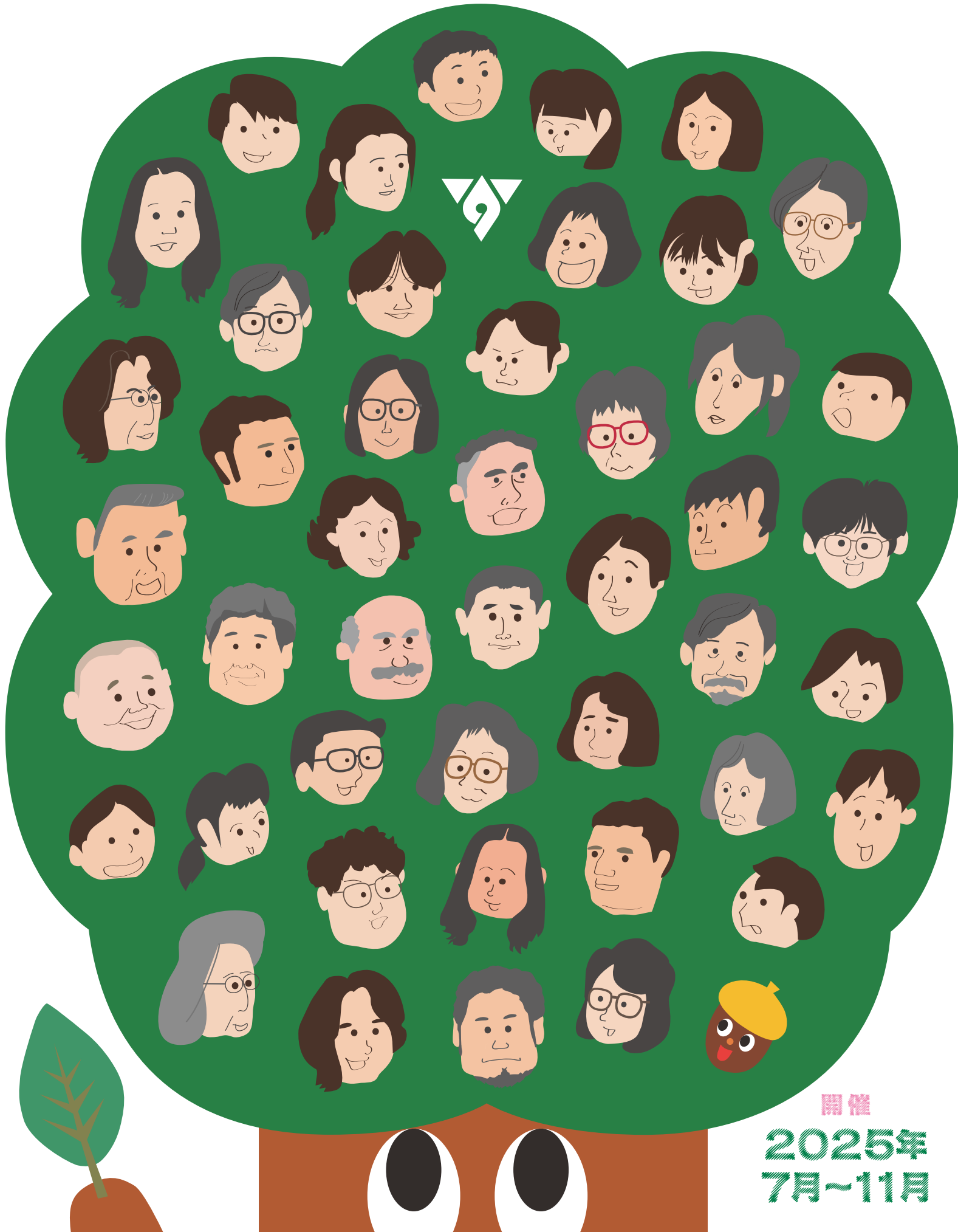


脱炭素はだの市民会議



開催

2025年
7月~11月

脱炭素はだの市民会議について

背景

地球温暖化によるとみられる異常気象が近年多発し、深刻な影響が各地に広がっており、地域の脱炭素化がますます重要な課題となっています。

秦野市は、2022年4月に「秦野市地球温暖化対策実行計画」を決定し、2030年に中間目標を設定して対策を進めています。2025年は、これまでの取組みを中間評価して次のステップを目指す年であり、これと関連して、脱炭素はだの市民会議を開催しました。この市民会議は、神奈川県「若年者・地域向け脱炭素普及啓発」事業の一環として、世界で開催されている気候市民会議※の手法をベースに実施されました。

目的

市民会議の目的は、参加市民が脱炭素社会の実現に向けて、専門家による情報提供やアドバイスを受けながら、市民の取組みや地域社会において進めていく課題などについて対話を重ね、その結果を市民提案として取りまとめることです。市民提案は、秦野市の地球温暖化対策実行計画の中間見直しの参考とされ、今後の脱炭素政策に生かされるとともに、地域社会にも発信し、地域における取組みに発展していくことも期待しています。

市民会議の主催等

主催： 脱炭素はだの市民会議実行委員会、秦野市

事務局： 一般社団法人環境政策対話研究所 (IDEP)

脱炭素はだの市民会議実行委員会

- 委員長 勝田 悟
(東海大学大学院人間環境学研究科教授)
- 副委員長 大熊一寛
(東海大学政治経済学部教授)
- 委員 大塚彩美
(東京大学未来ビジョン研究センター特任助教)
- 石丸昌義
(元秦野市環境審議会委員 (市民公募))
- 高橋大助
(NPO 法人 秦野にぎわい創造まちづくり理事長)
- 吉田秋恵
(湘南生活クラブ生活協同組合理事)

欧州発の※気候市民会議

気候市民会議は2019年フランスとイギリスで始まった、脱炭素社会づくりに向けた市民参加の手法です。その後、欧州の各国、各都市から世界中に広がっています。

日本での気候市民会議の広がり

日本でも2020年の札幌市、翌年の川崎市を皮切りに、2026年現在、のべ32箇所で開催されています。神奈川県は、2023年度から「脱炭素地域ワークショップ」を施策として推進し、逗子市・葉山町、厚木市、横浜市青葉区、茅ヶ崎市、鎌倉市、秦野市、大磯町、藤沢市で実施しています。

市民会議の参加者

市民会議の参加者は、無作為抽出による秦野市民で、社会の縮図（年齢、性別、居住地等に偏りが無い）に近づくように調整し、45名（当初）が選ばれました。



参加市民、主催者、専門家、ファシリテーター、事務局スタッフ等集合写真

秦野市の住民基本台帳
(16歳以上75歳未満)
約**11万2000人**



秦野市が無作為で
2500名
を抽出し、
参加呼びかけを発送



383名から回答、
うち**79名**が
参加表明

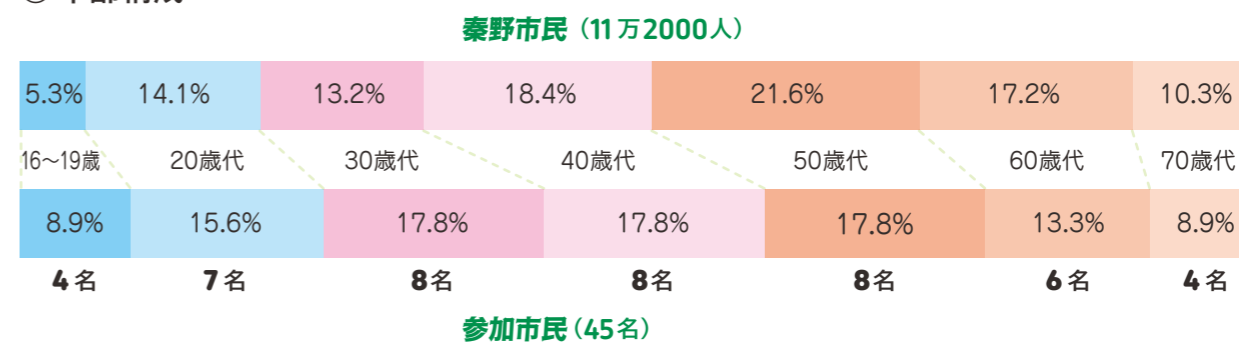


年齢・性別・住区に
偏りが無いように調整して
秦野市の縮図
(ミニパブリックス)を
形成し、**45名**を選出

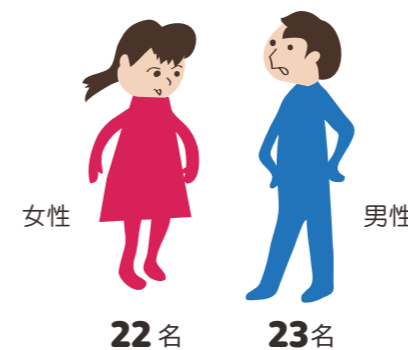


参加者の内訳

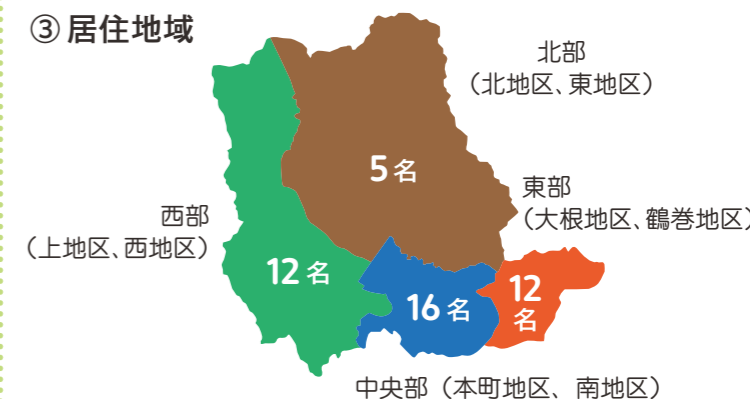
① 年齢構成 (16歳以上75歳未満)



② 男女比

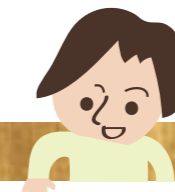


③ 居住地域



市民会議：全体の流れ

開催場所：上智大学秦野キャンパス



第1回

7月26日(土) 13:00-17:00

「未来のはだの」を描き、
気候変動・脱炭素とのつながりを考える

顔合わせ、オリエンテーション

グループワーク

2050年こんな秦野であってほしい！

情報提供① 「気候変動とカーボンニュートラル」

情報提供② 「秦野市の脱炭素への取り組み」

グループワーク

ありたい未来の秦野 × 脱炭素のつながりを見つける

「脱炭素アクション Days」への案内

第2回

9月6日(土) 13:00-17:00

「脱炭素はだの」実現の
課題を検討する

グループワーク

脱炭素アクションチャレンジの感想、
気付きの共有

情報提供①

「カーボンフットプリント (CFP) を通して
考える社会の脱炭素」

情報提供② 「秦野市に関する基礎情報」

グループワーク

はだの脱炭素アクションを進める時の期待と
課題を出しあう

第3回

10月11日(土) 10:00-17:00

テーマごとに学習・討議して
「脱炭素はだの」実現の方法を考える

情報提供① 住まい

「住まいと暮らし方で脱炭素を進めるには」
「森と人をつなぐ秦野の家づくり」など

情報提供② 食と消費

「食と消費で温室効果ガス(GHG)を減らすには？」

グループワーク

脱炭素はだの実現に向けたアイデア出し

情報提供③ 移動・交通

「脱炭素はだの実現に向けて『移動』問題を考える」

情報提供④ 地域資源

「地域資源の活用で目指す脱炭素な地域づくり」
「秦野市の水とみどりの取り組み」

グループワーク

脱炭素はだの実現に向けたアイデア出し

第4回

11月22日(土) 13:00-17:00

素案をブラッシュアップし
「市民提案」に

グループワーク

市民提案の素案のブラッシュアップ

自由参加ワーク

- ・ありたい未来の秦野 × 脱炭素・市民提案とのつながりを考える
- ・推し提案投票
- ・脱炭素はだのマップづくり

ふりかえり

市民提案の最終化と投票

第4回市民会議終了後に、実行委員会と事務局において市民提案の完成のための作業を行い、「市民によるチェックの会 2」、及び投票を経て市民提案を完成しました。

「市民提案」完成 P.6~P.13

「脱炭素はだの」
実現のための
継続的な取り組みへ



「市民提案」手交(提出) P.14

フォローアップ会議 P.15

脱炭素アクションDays

第2回までの間に、自分のカーボンフットプリント(CFP)の診断と、脱炭素アクションリストからいくつか選んで実践にチャレンジしました。

25件の脱炭素のアクションリスト※

1. 自宅を「III社」住宅にする
2. 自宅に太陽光発電を設置する
3. 電力を再エネの契約に切替える
4. 自宅の断熱化・高効率給湯への切替え
5. LED電球、省エネ家電に更新する
6. 入浴時の追い炊き回数を減らす
7. コパの外な住まい方を実践する
8. ライドシェアリングを実践する
9. エコドライブを行う
10. カーシェアリングを行う
11. マイカーを電気自動車(EV)に
12. 通勤時の公共交通機関利用
13. 地域内はバス、電車、自転車を利用
14. 食事を菜食や代替品に替える
15. 菓子・アルコール・ジュースを減らす
16. 旬及び地元生産の食材を購入する
17. 食品ロスをゼロにする
18. 環境配慮型製品を購入する
19. 衣類を長く大切に着る
20. レジャーをアウトドアや地域で
21. 湧水等を利用した打ち水で涼しく
22. 緑化、里山活動・農園体験に参加
23. 秦野産木材を活用する
24. 使い捨てプラスチックを
使わない、もらわない
25. 生ごみを分別し、堆肥化する

※「国内52都市における脱炭素型ライフスタイルの選択肢：カーボンフットプリントと削減データブック」(小出など2021)に示されたアクションのうち20件と秦野市の地域特性等を反映した秦野スペシャルとして実行委員会が提案した5件を加えた。

脱炭素アクションDays

第3回までの間に、まだやったことのない脱炭素アクションにチャレンジし、その結果(感想や考えたこと)をレポートしました。すぐに実践するのが難しいことは、「調べてみる」こともアクションとしました。



グループワークの様子


グループワークの結果の取りまとめと 市民提案の素案づくり

参加市民の有志による「市民によるチェックの会」を開催、第3回のグループワークの結果をもとに作成した記録を、分野ごとに事務局・実行委員・専門家のチームで整理したものを確認していただきました。

「脱炭素はだの市民会議」
についての詳細はこちらから
ご覧いただけます。





市民提案は、全4回の市民会議の中で「移動・交通」、「住まい」、「食と消費」、「地域資源」の4つのテーマで話し合わせ、投票を経て162件(38項目とその枝番124件)の提案に取りまとめられました。
 はだのの市民提案は、森林や地下水などの地域資源を活用する提案が多く、「住まい」や「食と消費」にも地域資源にかかわる提案がみられます。その提案には、秦野市くずの家マスコットキャラクター「もりりん」を付けました。 → 

「市民提案」すべてについて、参加市民により支持度を測る投票を行いました。
 選択肢は「7積極的に推進すべき」～「1まったく推進すべきでない」の7段階とし、投票の結果、肯定的な意見が半数以上あったものをここに掲載しています。(※2件を除く)

市民提案の本編には、この小冊子に記載した提案に関し、より詳細なアイデアがたくさん示されており、支持度を示したグラフや、半数の支持が得られなかった意見も参考資料として掲載されています。完成版はこちらからご覧いただけます。



「移動・交通」における提案

公共交通機関の利用促進

市民は、バスをもっと利用する

- ・事業者は、ルート、本数を利用者数によって適宜見直し、利便性を向上させる
- ・事業者は、バスを利用しやすくするために、各種案内を充実させる
- ・事業者は、バスの利用を促進するために、料金などで工夫する
- ・市は、バスを利用しやすい町づくりを考え、都市計画を見直すべきではないか
- ・市は、交通が空白・困難な地域で、コミュニティタクシーの運行を検討する
- ・事業者協働で、バスの利用者が少ないルートは、コミュニティタクシーとの連携を図る



市民は、コミュニティタクシーをもっと利用する

- ・事業者は、コミュニティタクシーの認知度が低いので、わかりやすくPRする
- ・事業者は、(Uber やタクシー Go のように) スマホアプリ等から予約できるなど利便性を上げる

自転車利用・徒歩の促進

市民は、自転車をもっと利用する

- ・店舗は、駐輪場を整備する
- ・市と事業者は、自転車を利用すればお得になる仕組みを作る
- ・市と事業者は、地域でシェアサイクルを広める
- ・市は、中長期的に、自転車で走りやすい道路を整備する
- ・市は、坂道が多い地域向けに、電動自転車の購入に補助する

市民は、歩く習慣を身につける(健康意識を高める)

- ・市は、歩きたくなるような歩道作りを進める
- ・事業者と市が連携して、徒歩を活かしたイベントを開催する
- ・事業者は、徒歩での買い物時に、荷物を配達してくれるサービスを提供する
- ・事業者は、徒歩を利用したゲームを開発する
- ・事業者は、徒歩によりポイントが貯まるアプリを展開する



自家用車の利用を減らす

市民は、買い物での自家用車利用を減らす

- ・事業者は、自動車移動販売を増やす
- ・交通が不便な地域で、買い物などの支援を行う
- ・市は、コミュニティバス、コミュニティタクシーの乗り方を分かりやすくする



EVに切り替える

市民は、EVを購入する*

- ・事業者や市は、市民がEVを購入しやすくなるよう支援する
- ・事業者は、EVタクシーを増やす
- ・市は、公用車をEVに切り替える
- ・事業者は、EV充電施設を増やし、EVを使いやすくする
- ・市は、市内や学校等で子供のころからEVのメリット・デメリットの教育を行う




※この提案は、投票の結果、半数の支持が得られませんでした。

EVの技術革新に期待する

「住まい」における提案

断熱リフォームに取り組む

市民は、自宅の断熱性能を改善する

- ・市民は、自分で「断熱」について調べる
- ・市と工務店は、連携して未来型のモデルハウスを作り気軽に体験できるようにする
- ・メーカー等は、DIY 教室を開催し、市民が二重窓や断熱カーテンを自分で作れるように紹介する
- ・ 建材メーカー、ホームセンター、工務店などは、安価で高性能な断熱 DIY で使える断熱材を開発し、紹介する
- ・市は、断熱改修に対する補助金制度を作る。その際、制度を通年で使えるように、余裕のある予算作りをする（2月3月まで通年で使えるような制度に）



太陽光発電の導入を増やす

市民は、まず自分の家の使用電力を知り、太陽光発電の設置の検討につなげる

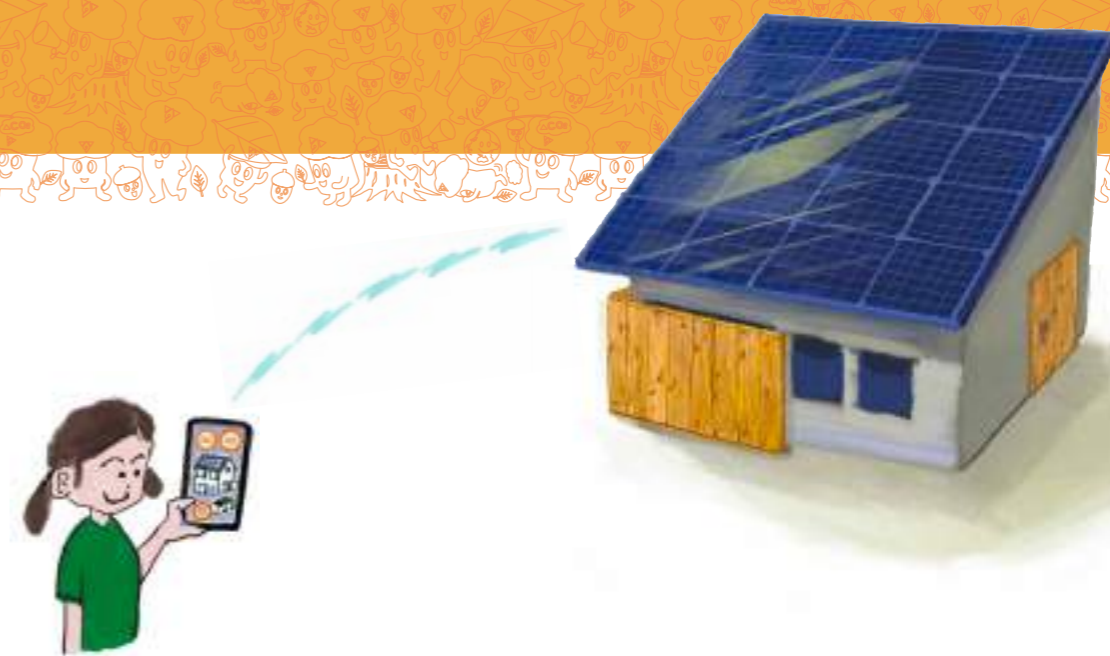
- ・市民は、個人の電力消費量が用途別に可視化できるアプリを使ったり、HEMS※を設置したり、使用電力の計測が可能なコンセントを使ったりして、常に電力を見られるようにする
- ・事業者は、スマートメーターから取得できる情報をより見やすくする
- ・市や事業者は、市民が電力使用量の情報を見るよう呼びかける

※ HEMS とはホームエネルギーマネジメントシステムの略で、家の中の家電などをインターネットでつないで家のエネルギー利用を見える化するシステムのことです

市民は、自分の家の屋根に太陽光発電を設置する※

- ・市民は、太陽光発電設置に関する補助金制度を知る
- ・市民は、神奈川県補助金制度を活用した、0円ソーラー制度を利用する
- ・工務店やハウスメーカーなどは、個人が勉強しなくても制度を利用できるよう、制度を説明できるようにするとともに、申請書類の作成に協力する
- ・市は、0円ソーラーを補完する秦野市の補助の仕組み（0円ソーラーでかかる経費を補完するもの、あるいは0円ソーラー以外に自己所有の太陽光発電設置のための補助金制度など）を作る
- ・太陽光パネルの開発事業者は、デザインやサイズ感が導入障壁とならないよう、魅力的、目立たないデザインや多様で気軽に設置できるサイズ、耐久性にすぐれたパネルを開発・販売する

※この提案は、投票の結果、半数の支持が得られませんでした。



市民は、引越し時などには太陽光発電が設置されている家・アパート・マンションを選んで住む

- ・不動産業者等は、太陽光発電が設置されている物件の情報を、市民をはじめ市外からの転入予定者などに見える化する
- ・物件所有者や不動産事業者等は、市民がそのような賃貸物件を選べるよう、太陽光発電を載せた賃貸物件を増やす

市民は、太陽光発電をもっと身近に利用する

- ・市民は、太陽光発電がついている施設を利用する

再エネ電源への切り替え

市民は、再エネ電源へ切り替える

- ・市民は、再エネ電源を積極的に契約する
- ・市や各学校法人等は、再エネ電源の意義などについて学校での学びを進める
- ・事業者・団体等は、小さな電力会社の信用保証の仕組みをつくる

地元産木材の活用

市民は、自宅の新築やリフォーム時に秦野や神奈川など地元産の建材を使う

- ・市は、地元産材を使った場合の助成金制度についてもっと広報する

省エネ・エコライフの実践

市民は、省エネ・エコライフの実践を促進する

- ・市民は、様々な省エネアクションを実践する
- ・事業者は、割引やポイント付与、お友達紹介サービスなどによって市民の省エネ実践を後押しする
- ・市と民間団体は、市民の省エネ・エコライフスタイル促進のための広報や啓発を行う

「食と消費」における提案

カーボンフットプリントの低い食事

市民は、カーボンフットプリント (CFP) の低い食品^{*}を選択・購入する

- ・市民は、スーパーなどに、CFPの低い商品売っているか、どここの売り場にあるかを問い合わせ、品ぞろえするよう働きかける
- ・お店は、CFPの低い商品の購入を消費者に働きかける
- ・市民は、CFPの低い食品に関する学習を行う
- ・市や事業者は、CFPの低い食品について広報を行う
(広報はだの、タウンニュース、健診のお知らせ、イベント、シンポジウム、公民館事業などで)
- ・市と教育委員会は、小中学校や幼稚園等の教育内容及び給食に、CFPの視点を取り入れる
- ・事業者 (お店や飲食店) と市が協働して、CFPの低い食事メニューやその見える化を推進する

^{*} CFPとは、製品の原材料調達から加工、輸送、使用、廃棄までに排出される温室効果ガスをCO2に換算した数値。肉類を控え、旬の地元の食材を選ぶことで、食事のCFPを抑えることができます。

市民は、「じばさんず」や朝市、スーパー、無人販売所などで旬の食材・地元の食材を選ぶ

- ・市民は、規格外の野菜も気にせず選び、流通量を増やすことに協力する (畑での食品ロス削減にもつながる)
- ・スーパーや「じばさんず」は、旬のメニューを紹介する。
- ・事業者は、地元の市民が購入しやすいように、「じばさんず」のようなお店をたくさん作る
- ・市は、無人販売所マップを作り、周知する
- ・市は、朝市 (マルシェ) などの開催頻度が増やせるよう支援する

食べ物を大切に

市民は、食品ロスを減らす

- ・市民は、量り売りを利用するなどし、食料に必要な量だけ買う
- ・事業者は量り売りを行う
- ・事業者は賞味期限・消費期限の迫った食品を積極的に売り切るとともに、その在り方を見直す
- ・飲食事業者 (学校給食提供事業者等) は、AIなどを活用して食品ロスを減らす
- ・市民と産官学すべてがフードロス「0」化を共有し有言実行するために、市は、市民や事業者が協働して考える場を作る
- ・市民団体 (フードバンク運営団体) や市は、フードバンクの拠点を増やす

山の恵みを生かす

- ・事業者は、鳥獣の個体数が多い間は、ジビエを秦野の名産品として売り出す
- ・市は、猟友会のメンバーが増えるように支援する

市民は、「食と健康」「農と環境」について認識を深める

- ・市と教育委員会は、私たちが当たり前前に享受している綺麗で美味しい水、米、農作物は、実は世界では当たり前ではないこと、食物のありがたみ、農家の方へのリスペクトを認識するよう、教育課程に取り入れる。



環境に良い消費行動

市民は、洋服や日用品を大切に、長く使う

- ・市民は洋服をリペア (修理) して長く使う
- ・市民は洋服や日用品をリサイクルできる場所を活用し、使わなくなったものはリサイクルする

事業者は、日傘、子ども用品、介護用品などのレンタルサービスを提供する

市民は、どのような消費行動が脱炭素につながるのを知り、行動する

- ・市民と地域主体は、環境ラベルの種類 (や脱炭素につながる消費の方法) を書いてあるシートを作る
→市民はそれを冷蔵庫に貼る
- ・学校は、脱炭素のライフスタイルを家庭科で教える



ごみを減らす

市民は、生ごみを減らし、たい肥作りに参加する

- ・自治会単位でごみステーションにコンポストを設置する
- ・市は、コンポスト普及を促進する助成金を出すとともに、必要に応じてごみの分類ルールを変更する。
- ・市と市民は、生ごみをどう処理していくべきかをみんなで検討する

市民は、ワンウェイのプラスチックの使用を減らす

- ・市民は、みんなマイかご、マイバッグを使う
- ・事業者は、プラスチックトレイをなくす
- ・市は、プラスチック包装削減店舗の認定制度を設けて、認定店化を推奨する
- ・市民は、マイ容器、マイタッパー、マイタンブラー、マイボトル、マイフォーク、マイスプーンを使う
- ・市民は、商品を買うとき (テイクアウトを含む)、リユース容器を使っている商品やお店を選択する

市民は、ごみの分別、リサイクルに協力し、ごみを減らす

- ・市民は、ペットボトルゴミを削減する
- ・市民は、(軽くてかさばらない) マイボトルを利用する
- ・大手飲料メーカーは、リターナブルペットボトルを導入する
- ・市民は、修理やリユースの仕組み (もったいないDAYなど) を活用し、粗大ごみを減らす
- ・地域組織と市は、団地などのごみの収集ルール (収集日や捨て方) を、外国人にもわかるように、やさしい日本語、イラスト、ピクトグラムなどで周知する

「地域資源」における提案

森林資源の活用

秦野や神奈川県などの地元産木材を使った建築物の建設や利用を促進する

- ・市や事業者は、地元産木材を使った公共的な施設・インフラを増やす
- ・市や事業者は、地元産木材の販売情報（どこでどんな種類の木材が買えるか等の一覧）を提供する
- ・市は、建材用に木を切る方（林業従事者）に補助金制度を創設する

市民は、地元産の木を使った製品を積極的に使う（意識を持つ、購入する）ことで、端材や間伐材の活用 に貢献する

- ・市民は、地元産のウッドチップ舗装を暮らしに生かす
- ・市や事業者、地域組織は、地元産の木を使った製品の開発・生産に取り組む
- ・市及び関連する事業者等は、地元産の木を使った製品のブランド化・特産化を図る
- ・事業者は、住まいのDIYに使える性能の良い木製断熱材を開発する

市民は、市内の間伐材を活用した地産地消のエネルギーを使う

- ・市や森林組合は、間伐材などから作られたウッドチップを使ってバイオマスエネルギーを供給する
- ・市やバイオマスエネルギーの供給者、公共施設の運営事業者などは、公共施設や準公共施設（山小屋を含む）での薪ストーブ／ペレットストーブやバイオマスボイラーなどのバイオマス利用を進める
- ・市民は、地元の間伐材などから作られた薪やウッドチップ、木質ペレット※を使った暖房利用に親しむ

※ペレットとは、間伐材、端材等の木材を粉碎したものを円筒状に固めたもの

市民は、森林の保全活動に参加し、地域資源の活用を下支えする

- ・市民は、植樹祭などに積極的に参加する
- ・森林組合や市は、それぞれ森林保全やCO2削減の大切さをアピール／啓発する



街なかの暑さ対策

市民は、外出を涼しくする工夫をする

- ・市民は、クールシェアスポットなどの涼しい場所で楽しむ
- ・市と事業者は、市民が集まったり、時間を潰せたりするクールシェア／ウォームシェアの場所（商業施設、レジャー施設、魅力的な公共スペース等）を増やす
- ・市や事業者は、エリアを限定して歩道をアスファルトではなくウッドチップにする

市民は、夏でも公園／外での遊びが可能な場所を利用する

- ・市民は、涼しさの創出が実施されている施設や公園で遊ぶ／イベントに参加する
- ・市や事業者は、地下水を用いたミストや噴水を設置する



街なかに日陰、木陰を増やす

- ・市は、地元産木材・間伐材を使った東屋などを増やす
- ・事業者は、駐車場や駐輪場に太陽光パネル付の屋根を付ける

農業の維持・継承

市民は、農業の維持・継承に貢献する

- ・市民は、自家菜園、市民農園などで野菜作りを楽しむ
- ・市民は、秦野市内の果物狩りに参加する
- ・市は山の方の農地に行きやすいよう交通を整備する
- ・農家／農業事業者は、ドローンを使った農業や環境負荷の低い農業を実践する



未／低利用資源の利活用

日頃の生活や事業の中で湧き水をもっと生かす

- ・市や事業者は、秦野の名水を使ったウォーターサーバーを開発する
- ・市民及び市は、秦野の湧き水や地下水の利用を日常的にも、イベントとしても推進する
- ・事業者は事業に地下水を利用する（例：工場等での空調や製品等の冷却など）

生ごみを資源として生かす

- ・市は生ごみの資源化を政策として推進する
- ・市と事業者は、バイオマスエネルギーとして生ごみを再利用できる施設を作る
- ・地域や団体等は、市民が自宅や地域で作ったたい肥やメタン発酵後の残渣を農家や地域の他の人などに使ってもらえる仕組みを作る

市民は、熱エネルギーを利用した施設を活用する

- ・市は、ごみ焼却施設「はだのクリーンセンター」や名水はだの富士見の湯などの熱エネルギー利用施設における熱利用についてPRする
- ・市民は、市内の熱エネルギー利用施設を活用してコミュニティ活動を行う

地域に降り注ぐ太陽光・太陽熱を資源として生かす

- ・市民、事業者、市は、それぞれ住宅や施設の屋根などへの太陽光発電の導入を増やす
- ・農業経営者は、ソーラーシェアリングを実施する
- ・市、事業者、市民は、地域で、地域電力につながり得る共同太陽光パネルを導入する
- ・市民、事業者、市は、それぞれ太陽熱の利用を検討する

地域資源を生かした産品を通じた低炭素化と地域経済の活性化を図る

- ・地下水を活用した産品（豆腐、もやし、酒など）を生産・ブランド化する
- ・観光（エコツーリズム）としてOMOTANガイドツアーなどをブランド化する

市民会議後の取り組み



秦野市に提出

2026年1月15日、秦野市長に「市民提案」を手交しました。



フォローアップ会議

1月18日、市民会議をふりかえり、みんなの思いを次につなげていくためにフォローアップ会議を開催しました。会議には参加市民有志と実行委員会および関係者が参加し、実現したい提案や、どんな活動をしてみたいか、について話し合いました。

市民会議のふりかえり

ふりかえりアンケート結果

Q.1 市民会議に参加してよかったと考えますか？



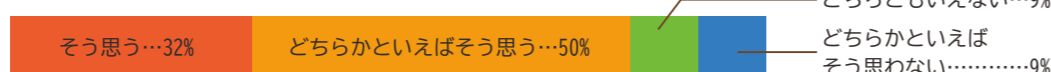
Q.2 市民提案の内容について満足していますか？



Q.3 脱炭素社会を実現するために、自分自身の脱炭素の取組みをもっと進めていきたい



Q.4 日々の暮らしにおける脱炭素の取組みが行いやすくなるよう、社会の仕組みを改善していくために、地域の中で具体的な取組みに関わりたい



市民の意見

老若男女が集まり課題について十人十色いろいろな考えがあることがわかった

地域の方と地域の取組みについて考えを深めてくれた事がとても有意義で良かった

脱炭素について深い理解ができ、それにより生活習慣がより良い方向に変わりつつある

市民の生の意見が行政側に示すことができるのは、民主主義として良いこと

市民会議を支えた人々 (敬称略)

専門家・アドバイザー・情報提供者

「気候変動とカーボンニュートラル」大熊一寛 (東海大学、実行委員会委員)
 「秦野市の脱炭素政策への取組み」野尻和秀 (秦野市環境共生課)
 「CFPを通して考える社会の脱炭素」平山世志衣 (NPO 法人横浜 LCA 環境教育研究会)
 「秦野市に関する基礎情報」大塚彩美 (東京大学、実行委員会委員)

住まい 山本佳嗣 (東京工芸大学)
 岩澤賢太郎 (株式会社コラム建設)
 松田泰弘 (神奈川県脱炭素戦略本部室)
 近松将和 (秦野市環境共生課)

消費 村上千里 (環境政策対話研究所)
 吉田秋恵 (湘南生活クラブ生活協同組合、実行委員会委員)

移動 柳下正治 (環境政策対話研究所)
 地域資源 兼松祐一郎 (東京大学)、大塚彩美、近松将和

ファシリテーター

全体ファシリテーター……岩崎茜 (東京大学、サイエンスコミュニケーター)
 グループファシリテーター……朝尾直太、有賀一広、稲田あや、稲田素子、片岡博、川瀬裕子、越地浩氣、小谷真司、小林綾子、葉石真澄、平野理恵、山内健、加藤木ひとみ、石井徹

スタッフ

記録……石井徹、石野耕也
 実行委員会事務局…石野耕也、村上千里、山本かおり
 会議運営サポート…池田実生、石丸昌義、石渡龍翔、植木陽子、遠藤はな、岡安真弓、玄道優子、見目悦男、高橋淳子、高橋陸空斗、田邊学、土田智之、中村百花、原悠泰、三河純子、宮本隆成、師岡文男、吉田秋恵、秦野市環境産業部環境共生課職員
 ベビーシッター等…株式会社コーチャーズ



脱炭素はだの市民提案

提案には、4つのテーマ・17の分野があります
関心を持った分野から、ぜひご覧ください

移動・交通

(P.06-07)

- 公共交通機関の利用促進
- 自転車利用・徒歩の促進
- 自家用車の利用を減らす
- 電気自動車(EV)に切り替える

住まい

(P.08-09)

- 断熱リフォームに取り組む
- 太陽光発電の導入を増やす
- 再生可能エネルギー電源への切り替え
- 地元産木材の活用
- 省エネ・エコライフの実践

食と消費

(P.10-11)

- カーボンフットプリント(CFP)の低い食事
- 食べ物を大切にする
- 環境に良い消費行動
- ごみを減らす

地域資源

(P.12-13)

- 森林資源の活用
- 街なかの暑さ対策
- 農業の維持・継承
- 未／低利用資源※の利活用

※森林・湧き水・生ごみ・太陽光など



この冊子は、独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を受けて製作しました

発行

一般社団法人 環境政策対話研究所

川崎市麻生区百合丘 1-18-5 アビタシオン百合ヶ丘 304

044-387-0116 / office@inst-dep.com / http://inst-dep.com

デザインとイラスト
有賀一広・有賀奈津子